新宿山吹だより

都立新宿山吹高等学校通信
令和４年度第12号
【令和５年３月８日】

新宿山吹だよりは、保護者の皆さんにも読んでもらって下さい。

親と子の関係

校長　永浜　裕之

人は母親の胎内から生まれ、親の愛情と育みを受けながら成長していきます。

しかし、生まれた瞬間から子どもは、親と別の人格を持ちます。その証拠に、生徒の皆さんの中には今朝も母親と喧嘩をしてきたなどという人もいるのではないかと思います。それはそれでいいのです。別の人格なのですから、時にはそんなことがあるのも当然です。それでもしばらくすると、ケロっと元に戻っている、それが親子です。

特に皆さんのような思春期の時代には、時に親に寄り添い、時に親と離れることを繰り返して、次第に親から独立していくのだと思います。いずれは親を一人の人間として余裕を持って眺められるようになっていくものですが、その時まで微妙な距離感を保っているのが親子の関係だと思います。

今回は、親と子、特に、母親と娘に関する話を紹介します。

俳優の渡辺美佐子さんのお話です。彼女は少女の頃、戦争のため長野県に疎開していました。戦争末期の皆が飢えている時代でした。

ある日、どう工面したのか、彼女の母親がカレーライスを作り始めたのです。その頃、カレーライスは特別のご馳走でした。「できたわよ」の声に少女は土間に駆け寄り、鍋を持ちました。ところが、喜びに体が弾んでしまい、ゲタの足がもつれて転び、カレーが入った鍋をひっくり返してしまいました。その時母親は、「火傷しなかった？」とだけ聞いて、黙々と後始末をしたそうです。

「あの時の母の顔を今でも思い出す」と、彼女は著書「ひとり旅一人芝居」に記しています。渡辺さんの芝居を観た母は「ゲタをはいて舞台を歩くでしょう。転ぶんじゃないかと気が気じゃなかったわ」と言ったそうです。娘の芝居を見る母の思いとはそういうものでしょう。

同じく俳優の高森和子さんのお話です。彼女の著書「母の言いぶん」によると、彼女の母親は80歳を過ぎて認知症になり、そして寝たきりの状態になりました。高森さんは仕事を１年間休み、姉と共に24時間の介護にあたりましたが、ある日、母親に食事をとらせた姉が、横になって母親に語りかけているうちに眠ってしまったことがありました。それを見た母親は、不自由な体を動かして自分のタオルケットを両手で握り、重そうに持ち上げると、やっとのことで姉の肩にのせ、震える手でタオルケットを姉にかけたそうです。

その光景に見とれていた高森さんは、「おかあちゃん」と静かに声をかけます。「ああ」と答えた母親の目は穏やかに澄み「今の母に一番必要なものはお医者さまの薬ではなかった」と思ったそうです。

太平洋戦争末期の昭和20年３月10日、東京の下町はアメリカ軍の大規模な空襲を受けます。10万人が亡くなったと言われる空襲の翌朝、一人の学徒兵が下町の一角で目撃したことが新聞に掲載されます。

「町は焼け野原となり、黒焦げになった死体が路上に散乱していた。死体の多くは仰向けになって息絶えていたが、一つの遺体だけが地面に顔をつけてうずくまっていた。着衣から遺体は女性であると分かったが、何故この遺体だけがこうした形で亡くなったのか不審に思い、学徒兵は遺体を抱き起した。

その遺体は赤ちゃんを抱えていた。そして、赤ちゃんの下には大きな穴が掘られていた。母親と思われる人の十本の指には血と泥がこびりつき、爪は一つも残っていなかった。空襲で生じた火災に追われどこからか逃げてきて、この場所までたどり着いたものの、周りを火に囲まれもはや逃げられない。

「もはやこれまで」と覚悟して指で硬い地面を掘り、赤ちゃんを入れ、その上におおいかぶさって火を防ぎ、我が子の命を守ろうとしたのであろう。赤ちゃんの着物は少しも焼けていなかった。小さなかわいい綺麗な両手が、母親の乳房の一つをつかんでいた。しかし、煙を吸ったためか、その赤ちゃんもすでに息をしていなかった」。

この記事を読むと、戦争の悲惨さに大きな衝撃を受けますが、同時に、亡くなった母親の、自分を犠牲にしても子どもを救おうとした心情に、粛然とする思いがします。

「親思う心にまさる親心」と言います。子が親を思うよりも、子を思う親の心はいっそう深いという意味ですが、親子関係の根本にあるものはこのような気持であると思います。

プレゼン原稿表示アプリ Presc（プレスク）の開発

情報科4部 4組 青木 勇樹

皆さん、プレゼンテーションや発表は得意ですか？
私は苦手な方で、課題研究や授業での発表がある度に、毎回入念に原稿を用意していました。特に、私は普段メモ帳アプリを使用して原稿を書いているのですが、これには色々と問題がありました。

例えば、原稿をキッチリ用意したのに緊張で頭が真っ白になり「どこまで読んだか」が分からなくなった。他にも、実際にプレゼンしてみたら大きく時間を過ぎてしまい、最後まで話すことができなかった。

プレゼンを経験した方の中には、同じように苦い思い出がある方も少なくないと思います。そこで、私は高校3年の課題研究の授業でこのようなスマホアプリを開発しました。

プレゼン用の原稿表示アプリ Presc（プレスク）では、音声認識により話し手の音声をアプリが認識し、読んだ場所に色を塗ってくれるため、どこまで読んだかが一目で分かります。
また、プレゼンを開始してからの経過時間や、声量をリアルタイムで視覚化してくれ、プレゼンの練習や本番の発表を手助けしてくれます。
アプリは主に4つの画面があり、原稿の編集画面では発表時間の目安を確認することも出来ます。

図１　「Presc」アプリ画面

私は実際にこのアプリを使用して、実際に学校の情報科発表会や、全国の情報科高校が集まる「全国専門学科情報科研究協議会」でPrescを発表しました。3月に行われた情報科発表会では、初めて大きな会場でPrescを使用しましたが、実際に使ってみるとマイクによる声の反響などによって、後ろの文章に飛ばされたり上手く認識されなかったりする現象が数回ほど起こりました。
そこでバージョン1.3では、誤認識が起きても画面をダブルタップで1つ前の状態に戻れるようにし、原稿をひらがなに変換する処理を実装することで認識精度を高めました。こういった改善によって、8月の全国専門学科情報科研究協議会では、無事にスラスラと発表することが出来ました。加えてアプリを開発したことで発表の機会も増え、前より緊張せずに人前で話せるようになった気がします。

また、10月には学校での発表の他にも、アプリ甲子園と呼ばれる中高生向けのコンテストで発表しました。この大会では、毎年数百以上の応募の中から書類選考で30人、プレゼンで10人が選ばれ、決勝大会にて競い合います。その結果、決勝大会に進出しさらに第3位と技術賞をいただくことができました。

図２　アプリ甲子園の参加

アプリ甲子園や情報科発表会、全国専門学科情報科研究協議会などによるプレゼンの機会など、貴重な経験を沢山することができて、とても勉強になりました。また、プレゼン用の原稿表示アプリ Presc（プレスク）は現在もApp StoreとGoogle Playストアに公開していますので、気になった方は是非インストールして使ってみて下さい！

青木さんは慶応義塾大学　環境情報学部に進学予定です。大学でも活躍を期待しています。

定時制課程　学校行事予定

３月９日（木）卒業予定者集会
10日（金）履修登録個別指導
12日（日）新入生履修登録
16日（木）一次調整
17日（金）一次調整結果発表
20日（月）二次申請対象者招集、履修個別指導
23日（木）卒業式
24日（金）修了式

通信制課程　学校行事予定

３月11日（土）学校説明会
18日（土）生徒相談日
21日（火）春分の日
23日（木）卒業式
26日（日）春季休業日（始）